

令和6年度第4回高知市街路市活性化推進委員会 議事録(概要)

日 時：令和7年3月4日(火) 10:00~12:00

場 所：高知市役所第二庁舎3階 311会議室

出席委員：廣末委員長，中澤副委員長，浅田委員，今西委員，小田委員，楠瀬委員，
新開委員，畠中委員，平井委員，福田委員，藤本委員

事務局：高知市商業振興・外商支援課

議題①：パブリックコメントの結果報告について

議題②：次期高知市街路市活性化構想案の最終意見交換について

議題③：令和7年度の取組について

1. 議題①：パブリックコメントの結果報告について

・パブリックコメントの意見の中で，街路市について「週1回しか機会がない」「屋外であるため気候・天候の影響が大きい」などの指摘があったようだが，逆に強みでもあることだと思うので，行政としてそのような回答でもよかったのではないかと意見を伺っていただく。(副委員長)

・構想の製本版はどんな方々が手にするのか？街路市の出店者の手元には渡らないのか(委員)

・何部ほど製本予定か？(委員)

⇒本編・資料編それぞれ50部ずつ製本予定で，活性化推進委員会，街路市運営協議会のみなさまへ配布する予定。街路市の出店者全員へお渡しするのは難しいが，データは手元にあるので必要な方には出力したものをお渡しすることは可能。HPにはアップロードするので，そちらへの誘導や，出店者向け広報「いち版」へ要点をまとめたものを掲載するなど検討している。(事務局)

・市民が買い物も，出店もできる街路市は歴史ある高知の資産であり，皆で支えていくべきもの。その意味からも広く市民の目に触れるようにしてもらうことが大事。「あかるいまち」へ掲載するなどしては。(委員長)

⇒街路市活性化構想の冊子は，学校など教育の場を中心に今後いろんな場面での活用を予定している。(事務局)

・県の産業振興計画の地域アクションプランにも街路市活性化については掲載されているので，新しい取組を含め足並みをそろえていければと思う。(委員)

- ・構想については案から修正していただいて、これまでの取組と今後の在り方について連続性が出てきたので非常に良かった。高知県全体で街路市を活性化させようという課題に対し、生活市と観光のバランスを含め方向性が示せたのではないか。（委員）
 - ・予算の関係もあると思うが、出店者のみなさんにも概要版ではなく構想冊子を配布いただきたい。出店者のみなさんにも読んでいただくことで彼らとの繋がりや、普段は把握できていない意見が出てくると思う。（副委員長）
 - ・最近小学生たちが商店街でお店や防災などを学んでいる。学生さんにも構想冊子を読んで、考えてもらうなど教科書のような使い方ができればよいと思う。（委員長）
- ⇒多くの方に見ていただくこと、出店者と同じ方向を向いて活性化を目指していくことが重要であると認識している。教育の場で副読本としても活用していく予定。（事務局）

2. 議題②：次期高知市街路市活性化構想案の最終意見交換について

- ・14時ごろまでの出店を、という話が出ているが出店者によって考え方や状況もバラつきがある。3月から来市者も増える時期なので、行政側から出店時間延長についての話があってもよいのでは。構想案の出店者アンケートでも早仕舞いに対し半数以上が「仕方がない」と回答している。昼以降はお客さんが減るイメージがあるので、そこを改善していくことも大切ではないか。（委員）
 - ・これまで行政側から閉店時間について出店者に通知したことはあるのか。観光事業者からも極端な早仕舞いについては指摘があったので、縛りがきつくなならない「努力目標」のような形で定めてはどうか。（委員長）
- ⇒14時まで、など時間指定で行政からお願いすることはなかったが、あまりに早い時間に閉店しないようひと声かけさせてもらっているような状況。（事務局）
- ・「努力目標」とは別に、午後にお客さんをお呼びする、という「運動」のようなものが必要では。ただ出店時間を延ばそう、だけでお客さんがいなければ意味がない。14、15時まで出店する意味があるような状況を作っていくことも大切だと思う。（委員）
 - ・これまでの議論のとおり、14時ごろにはほぼ閉店しているので観光で来た方々も「もう閉まっている」と買い回りができずがっかりして帰られるのが現状。改善できれば。（オブザーバー）
 - ・日曜日、街路市を目指してきたお客さまと、そうではないお客さまがいると思うが、宿泊施設で何か街路市に関する告知や案内はされているのか（委員）
 - ・街路市案内のパンフレットは置いていて土曜宿泊で日曜に観光のお客さまが多いのでその際にももちろん日曜市の案内をしている。（委員）
- ⇒ポスターやパンフレットは毎年作成し、各観光関連施設に配布している。（事務局）

・ 出店者はお客さまがいないという理由で早仕舞いし、来市者はお店が開いていないという理由で午後は来ない状況。しかし午後全く無人なわけではないので、アンケート結果をお題にして出店者や子どもたち、日曜市ファンなどいろんな人を巻き込んでワークショップをするのも良いのでは。そこで出たアイデアを形にしていく仕組みを作れないか。（副委員長）

・ メディアが取り上げやすいようなニュース性のある新しい取組を行うことが大切。店舗を持たずベーグル販売をしている知り合いに、「午前で切り上げた出店者の小間に、午後から入れるとしたらどうか」と聞いてみたところ、「ぜひやってみたい」という声があった。話し合いも大切だが、例えば「午前／午後でスタイルが変わる日曜市」といったような社会実験的・チャレンジ的にやってみることも必要ではないか。（委員）

・ いわゆる「生活市」とは少し変わってくるかもしれないが、そういった形で新しい層が参加することができれば相対的に今より開店時間を延ばすことは可能では。（委員長）

⇒現状の出店ルールや仕組みを大きく変える形になるので、これまでにいただいたチャレンジショップ的なご意見ご提案を含め、慎重に検討していければ。（事務局）

・ 現状は、午後はお店が開いていないという状況だが、行政側が旗を振り「●時までお店を開けよう」といった運動・キャンペーンをやっていかないと皆がその気にならないと思う。街路市に関する取組を多くの人に知ってもらいたいが、構想冊子などの情報をHPで公開といっても、わざわざ閲覧する人は多くない。具体的な仕掛けをやっていかないと難しい状況は変わらない、と強く思う。（委員）

・ 今度日曜市を14時ごろから案内する予定だが、閉店している店舗が多いと思うのでお客さまの反応が心配。14時以降も開けられる店を同じブロックに集めるなど、配置換えはできないものか。部分的にでも賑わいが出れば案内もしやすい。（委員）

・ 全国でも珍しい終日市が高知の日曜市で、そこが評価されている。高知市から距離のある遠方の人など「午後の時間帯の方が出店しやすい」という層もいるので、調査してみてもどうか。多様な人が出店しやすい仕組みを取り入れていくべき。（委員）

・ 活性化構想は各部分で見ているものだが、仕組み自体をドラスティックに変えていくような施策があっても面白いのでは。これまでの規制一辺倒では解決しない。（委員長）

⇒これまでの議論を元に「午後に何かがある」という話題を作って、人の流れを生み出すようなことも併せて実行していくのが必要だと考えている。（事務局）

・ 若年層など世代を超えて客層を広げるためにも街路市における「生活市」とは何かを再定義する必要があると思う。野菜などは加工された状態で購入したり、ベーグルをまとめ買いして冷凍し1週間かけて食べるなど、食に対する考え方や食生活が変わってきている。いろんな世代から見た「生活市」は何かを考える必要があるのでは。（委員）

・ 行政主導では進みにくい部分がある。議論の中で出た運動やキャンペーンなど、出店者側からの働きかけがあるとスムーズに進むかもしれない。おまち多目的広場はイベント

ができるようになったが日曜市とのコラボや関連企画の予定はあるのか。（委員）
⇒現時点で具体的ものはないが、今後そのような展開もお示ししていく。（事務局）

・教育の視点から若い方へ学びを提供するということだが、学生さんへのアンケートなどは行っているのか。（委員）

⇒アンケートは取ってはいないが、出店体験や買い物体験など街路市に関わる機会を増やせるよう検討する予定。高知商業が独自の取組で小学生と一緒に出店販売などを行うケースもあった。そのような取組を事務局としても支援していきたいと考えている。（事務局）

議題③：令和7年度の取組について

・日曜市のれんけいこうち小間での酒類販売について、日曜市で買った商品を食べながらお酒を飲めるようになるのを楽しみにしていた。どのような形で販売されるのか？（委員）

・生ビールなどを販売し、飲み歩き食べ歩きを許可するということか。（委員）

⇒これまでどぶろくなど一部のみ販売可能としていたところ、地域の醸造所や関係団体が製造する他の酒類も地場産品・特産品として販売できるようにする予定。試飲を除き、未開封の商品を販売することという条件を付しているので、飲み歩きを進めるものではない。（事務局）

・観光客目線という問題になる可能性がある。京都の某所に行った際、生ビールを売っていたので飲み歩きができると思ったが、飲み歩きは禁止と言われ、辻褄が合わないと感じた経験がある。商店街で開催する土佐のおきゃくはOKで日曜市はNGとなると「なぜ？」となるのでは。何がよくて何がダメなのか、線引きをはっきりさせた方が良い。規制緩和の内容によって、どんな問題が起こるのかを考えていく必要があると思う。（委員）

・過去に観光バスで飲酒された状態で来市していて、日曜市の調査中の学生に絡んできたというケースがあった。市で飲むならルールは必要ではないか。（副委員長）

・やる前から「～があるかもしれない」とトラブルを想定し否定的になるのではなく、やりながら改善、小さいPDCAを回していくことも大事ではないか。（委員）

⇒出店者さんと協議しながら進めてきた事案。まずはやってみて様子をみながら軌道修正していければと考えている。（事務局）

・これからも出店者が喜んでお店を出してくれることが大切。地域おこし協力隊に注目している。農林漁業に従事する人も多く、高知好きな人や出店者をお客さんで引っ張って

きてくれる場合もある。外国人労働者も意識していく必要があると思う。（委員）
⇒次年度から地域おこし協力隊1名の任用が決まっている。県外から来る方ならではの意見も取り入れていきたいと考えている。（事務局）

・日曜市内で、休憩所はどの程度あるのか。（委員）

・料理教室の実施とあるが、具体的にどのようにしていくのか。（委員）

⇒休憩所は観光案内所の近くや中の橋通り付近に常設しているほか、れんげいこうちの outlet がない場合はその小間が休憩所となる。料理教室については、他課で開催の実績があるので参考にして具体的な内容を詰めていく予定。（事務局）

・この後は3月上旬に市長決裁、中旬に議会報告を経て月末には構想の製本版が仕上がる予定。完成版は委員のみなさまへ献本させていただく。（事務局）